

LOBO 調査

早期景気観測

6月分 日商調査日 6月12日～21日
当所調査日 6月12日～26日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

6月の全産業DI ▲8.9 (前月比 ▲2.7ポイント)

サービス業では、飲食・宿泊業などで需要回復は継続する一方、深刻な人手不足に伴う受注機会の損失で、業況は悪化した。また、小売業では、物価高により消費者の日用品などの買い控えが継続しており、スーパーなどを中心に悪化した。卸売業でも、梱包資材価格の高止まりに加え、小売業・サービス業からの引き合い減少で悪化した。建設業・製造業では、設備投資需要が堅調に推移する一方、度重なるコスト増に価格転嫁が追いついておらず、横ばいに留まった。原材料・エネルギー価格の高騰や人材確保に向けた賃上げなどのコスト増加が継続する中、コロナ禍からの挽回消費にも一服感が見られ、中小企業の業況は悪化に転じた。

○中小企業の景況感

先行き見通しDIは ▲10.2 (6月比 ▲1.3ポイント)
インバウンド・国内観光需要の回復

や、企業の設備投資の増加など、経済活動のさらなる改善が期待される。一方で、原材料・エネルギー価格の高騰によるコスト負担増や人手不足への対応などは長期化しており、経営の足かせとなっている。

また、価格転嫁実施後に受注・販売数量の減少が生じたとの声もあり、中小企業の経営課題は多様化し、慎重な見方が続いている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

公共工事の件数は、自社の対応可能な件数を上回る水準で推移している。自社の受注数を増やすため、人材確保に努めているが、採用などにかかるコストが重く、収益を圧迫している(管工事業)。

5類移行に伴う人流回復により、化粧品・トラベル用品・衣料品など、外出時に使用するものへと売れ行きがシフトしている(百貨店)。

当所調査

「原材料費・人件費高騰により、景況感悪化」

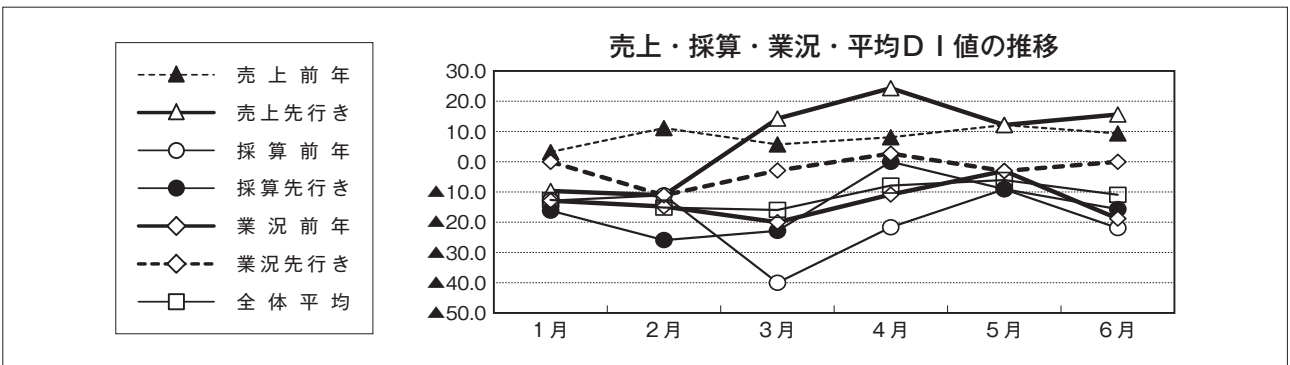
全体平均DIは ▲10.9で前月に比べ ▲4.8ポイントの悪化。項目別では、仕入先行き ▲14.1ポイント、業況前年 ▲15.8ポイントの悪化が見られた。コメントには「値上げにより売上が増えたが、原材料と人材を確保するための人件費高騰により、利益増にはつなげていない(菓子小売業)や「人手不足により受注数が増加しても対応できず、利益が上がらない(観光バス・旅行業)」といった、人手不足や原材料の価格高騰などの影響により、利益確保につながっていないとの声が聞かれた。

(全産業)

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和4年		令和5年					
	6月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
売上前年	▲20.0	3.2	11.1	5.7	8.1	12.1	9.4	
売上先行き	▲16.0	▲9.7	▲11.1	14.3	24.3	12.1	15.6	
採算前年	▲36.0	▲12.9	▲11.1	▲40.0	▲21.6	▲9.1	▲21.9	
採算先行き	▲32.0	▲16.1	▲25.9	▲22.9	0.0	▲9.1	▲15.6	
仕入前年	▲64.0	▲74.2	▲66.7	▲80.0	▲67.6	▲66.7	▲71.9	
仕入先行き	▲52.0	▲64.5	▲63.0	▲68.6	▲64.9	▲51.5	▲65.6	
社員前年	12.0	16.1	18.5	31.4	29.7	24.2	25.0	
社員先行き	4.0	22.6	18.5	25.7	18.9	27.3	25.0	
業況前年	▲20.0	▲12.9	▲14.8	▲20.0	▲10.8	▲3.0	▲18.8	
業況先行き	▲12.0	0.0	▲11.1	▲2.9	2.7	▲3.0	0.0	
資金前年	▲12.0	▲3.2	▲14.8	▲22.9	▲10.8	▲6.1	▲9.4	
資金先行き	▲8.0	0.0	▲11.1	▲11.4	▲2.7	0.0	▲3.1	
全体平均	▲21.3	▲12.6	▲15.1	▲16.0	▲7.9	▲6.1	▲10.9	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。